

1 鹿児島市水道局の概要

《水道事業の概要》



(河頭浄水場)

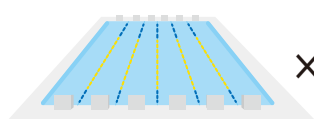
鹿児島市の水道の歴史

本市の水道は、大正8年に七窪水源地、上之原配水池を中心とする水道施設によって近代水道として通水して以来、昭和30年代までは水源を湧水と地下水でまかっていた。しかし、高度経済成長に伴う人口の増加や生活様式の変化（家庭用風呂の増加、水洗トイレや電気洗濯機の普及など）によって水の使用量が急激に増えたため、河川水を水源とする浄水場（昭和40年河頭浄水場、昭和50年滝之神浄水場）を建設しました。その後、さらに団地の開発などによって水が不足したため万之瀬川から導水する事業を県工業用水道事業と共同で行い、平成元年に平川浄水場の供用を開始しました。また、平成16年の5町との合併に伴い、平成17年には、5地域の簡易水道を本市水道事業に統合するなどし、今日に至っています。

業務の状況(令和元年度末現在)

行政区域内人口(鹿児島市に住んでいる人口)	A	593,474人
給水人口(水道局から給水している人口)	B	574,400人
普及率	$B \div A$	96.8%
年間総給水量		63,932,314m ³
一日平均給水量		174,678m ³
一人一日平均給水量		303ℓ

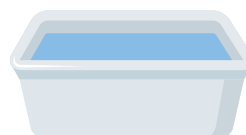
一日平均給水量
25mプール(275m³)



×約635杯分

※25mプールは横11m、深さ1.0mで計算しました。

一人一日平均給水量
お風呂の浴槽(200ℓ)



×1.5杯分

※水道事業・公共下水道事業のほかに喜人一倉町にある一倉工業団地の立地企業などに対し、工業用水を供給する工業用水道事業を平成16年度から引き継いで実施しています。

《公共下水道事業の概要》



(南部処理場)

鹿児島市の公共下水道の歴史

本市の公共下水道は、昭和27年に下水道築造工事に着手し、中央地区、城南地区などの汚水管布設を行い、甲突川下流にある錦江処理場の建設を行い、昭和30年11月に供用を開始しました。

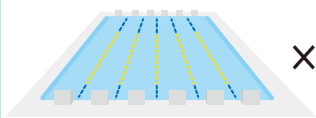
その後、大規模住宅団地の下水道整備に対応するため、昭和40年代から50年代にかけて南部処理場などの供用を開始しました。平成に入り、土地区画整理事業地区などの処理区域の拡大に伴う汚水量の増加に対応するため、平成12年には谷山処理場の供用を開始し、6処理場体制で運営していましたが、現在は処理場の統廃合に取り組んでおり、令和3年度には、南部処理場、谷山処理場の2処理場に統合します。

また、令和2年度から公共下水道事業（雨水）に地方公営企業法を適用しており、雨水路の整備などを行っております。

業務（汚水）の状況（令和元年度末現在）

行政区域内人口（鹿児島市に住んでいる人口）	A	593,474人
処理区域内人口（水道局が公共下水道を整備している区域の人口）	B	471,100人
整備率	$B \div A$	79.4%
年間総処理水量		60,128,354m ³
一日平均処理水量		164,285m ³
一人一日平均処理水量		354ℓ

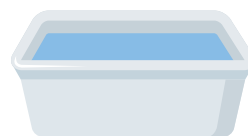
一日平均処理水量
25mプール(275m³)



×約597杯分

※25mプールは横11m、深さ1.0mで計算しました。

一人一日平均処理水量
お風呂の浴槽(200ℓ)



×1.8杯分